

論文

カリフォルニア州教科書の古代インド史記述をめぐる論争と訴訟
—二十一世紀初頭アメリカにおけるヒンドゥー至上主義の一断面

梶原 三恵子*

**The California Textbook Controversy over the History of Ancient India 2005–2009:
An Aspect of Hindutva in the United States**

KAJIHARA Mieko

Abstract

This paper reviews the controversy over the description of ancient India in the history-social science textbooks for public schools in California, the United States. During the 2005–2006 textbook adoption process, two Hindu groups submitted lengthy suggested amendments regarding the portrayal of Hinduism, to which a number of scholars of South Asian studies objected from an academic perspective. The State Board of Education adopted the textbooks which were amended following the scholars' suggestions. The controversy developed into two lawsuits which lasted until 2009. The judges ruled that the challenged textbooks comply with the legal standards whilst the State Board of Education had not complied with the regulations regarding the adoption process, though the judgment did not require the approval of the adopted textbooks to be rescinded. The central issues of this textbook controversy were the Aryan invasion theory, the status of women, the caste system and the polytheistic conception of Hindu religion in ancient India. Though this controversy was concerned with ancient Indian history, it occurred against the social and cultural background of Indian Americans today and was a manifestation, linked with organized movements by Hindu nationalists, of the offended feelings amongst some Hindu Americans that they were being discriminated against by mainstream Americans because of the allegedly negative image of Hinduism in American society.

要旨

本稿は2005年から2009年にかけて起きたアメリカ合衆国カリフォルニア州公立学校教科書の古代インド史記述をめぐる論争と訴訟を検証しその社会的背景を考察する。この事案ではヒン

* 京都大学人文科学研究所助教

- ・ 2003、「ヴェーダ入門儀礼の二つの相—通過儀礼と学習儀礼」、『佛教学セミナー』、第78号、1-20頁。
- ・ 2011, "The "gṛhya" Formulas in Paippalāda-Saṃhitā 20," *ZINBUN: Annals of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University*, Number 42, pp. 39-62.

ドゥー団体が提出したヒンドゥー至上主義的歴史観にもとづく教科書修正案に研究者たちが学術的観点から異議を唱えて論争となり、最終的に研究者側の見解に沿った教科書が承認された。これを不服として、ヒンドゥー団体側が二件の裁判に訴えた。法廷は研究者の見解に沿った教科書の内容を是認したが、教科書承認プロセスには教育委員会側に不備があったと認定した。特に論点となったのは、古代インドの女性の地位、カースト制度、多神教思想、アーリア人侵入説であった。この教科書問題は、ヒンドゥイズムについてネガティブなイメージを押し付けられているという一部のインド系市民のアメリカ社会主流派に対する反発が、ヒンドゥー・ナショナリスト関連団体による組織的運動と連動して顕在化したものであり、古代インド史を論争の主題としているが、現代アメリカにおけるインド系市民の社会的・文化的背景から起きた問題であった。

1. 序

初等・中等教育に用いられる教科書に自国・他国の歴史をどう記述するかは、関係する個人や団体の思想、信条、歴史観、宗教観などの違いからしばしば深刻な論争を生じさせるとともに、当該社会における当事者たちのアイデンティティに関わる問題を表面化させることのある事柄である。本稿は2005年に端を発したアメリカ合衆国カリフォルニア州における公立学校教科書の古代インド史記述をめぐる論争と訴訟を検証し、それらがヒンドゥー至上主義からの歴史教育への関与行動であったとともに、当事者となったアメリカのインド系市民の、アメリカ社会における彼らの宗教・文化に対する偏見や蔑視への反感の顕在化という、現代アメリカのマイノリティーによる抗議行動の側面があったことを論じる。

発端となったのは、2005年のカリフォルニア州教科書改訂に際して、古代インドの歴史と宗教に関する記述についてアメリカのヒンドゥー団体がおこなった教科書修正要求である。ヒンドゥー団体は大量の修正案を州当局に提出したが、その多くの部分が学術的に認められている史実と異なるとしてサンスクリット文献学をはじめとする南アジア研究者のグループが反論したことから、アメリカのインド系諸団体およびアメリカ国内のみならずヨーロッパおよび日本の南アジア研究者が直接間接に関与する論争となった。この論争は二件の訴訟に発展し、2009年の結審をもって一応の終結をみた。この事案は、アメリカというインド本国を離れた地において、公立学校教科書という一般市民がインド史に関する基礎的知識に初めてある程度系統だって触れることになる媒体に、なにをどのように記述するかについて、アメリカ在住のインド系市民団体が公の場で発言し、アメリカの法廷がこれに対する見解を示した初の事例として、インド国外での古代インド史の扱いという観点から、またいわゆるディアスポラ研究という観点から、注目に値するものである。当初はカリフォルニアの州レベルの問題であったが、アメリカの著名なサンスクリット文献学者が積極的に介入し、国際的に研究者の関心を喚起し連帯をよびかけたことによって、日本を含む世界各国の南アジア研究者がこの事案に関与し、推移を見守ることになった。古代インド史研究と現代の社会問題が乖離

したものではないことを研究者たちが改めて認識することになった¹⁾という点で、グローバル時代のインド研究という観点からも重要な事例である。

本論で詳述するように、この事案で主要な論点となったのは、教科書における古代インド史のうち、アーリア人侵入・移民説、カースト制、女性の地位、多神教に関する記述であった。ヒンドゥー団体はこれらのテーマに関する記述が誤っているために他の宗教に比べてヒンドゥイズムがネガティブに描写されていると主張し、教科書の修正を要求した。教科書改訂の後で起こされた訴訟では、上記のテーマに関する教科書記述の是非とあわせて、教科書およびこれを承認した教育委員会にヒンドゥイズムないしヒンドゥー団体に対する差別的偏見があったかどうかについても争われた。本論第5章で論じるように、この事案では教科書におけるヒンドゥイズムの記述をめぐる論争を契機に、現代アメリカ社会において主流を形成しているアメリカ的価値観と其中で生きるヒンドゥーの社会的立場という複雑な問題が露呈することになる。

当該のカリフォルニア州教科書問題はこれまでに、移民国家アメリカにおけるヒンドゥー社会のナショナリスト的側面の現れのひとつとして、あるいはヒンドゥー社会のアメリカ学術界に対する反発の一例として、あるいはインドおよびアメリカのヒンドゥー・ナショナリスト組織関連団体によるヒンドゥー至上主義の、ひいてはインド社会における多数派イデオロギーによる少数派締め付けの、アメリカ社会への持ち込みの運動の一環として、位置づけが試みられている [Kurien 2006: 734-736; 2007: 204-206; Bose 2008; Visweswaran et al. 2009]²⁾。また、教科書に宗教を記述するということがデリケートな作業であり、各宗教についてアメリカのみならず各国の教科書にさまざまな問題があることが指摘されており、それとの関連でこの事案が言及されている [藤原 2011a: 144-145; 2011b: 12-13; cf. 藤原 2009: 193-196]。本稿ではこれらの視点に留意しつつ、以下に論争と訴訟の具体的内容を時間軸にそって検証する。

2. 事案の背景

21世紀初頭、インドにおいて全国的な歴史教科書書き換えの動きが起こった。1998年にインド人民党 (Bharatiya Janata Party, BJP) が政権を掌握すると、同党の歴史観に沿った学校教科書の書き換えが本格化し、2002年には政府による書き換えが行われた [U.S. Department of State 2003; 栗屋 2004; 2010; 内藤 2004; Visweswaran et al. 2009: 101-105; Kurien 2007: 163-164; Delhi Historians' Group 2001; Menon 2002]。アメリカ合衆国国務省による「国際社会における信仰の自由に関する報告書」2003年版はインドについての章で「ヒンドゥトヴァ (Hindutva)」という語をあげ、他の宗教的規範を排除してヒンドゥーの宗教的文化的規範を政治的に刷り込む動きと定義し、「文化的ナショナリズム」と同義であるとしたうえで、その発露の一つとして、政府によるヒンドゥー過激派の歴史解釈を偏重した教科書書き換えの動きを挙げている [U.S. Department of State 2003]。書き換えられた「歴史」は「ヒンドゥイズムは純粋にインド起源のものであり、インドのムスリムおよびキリスト教徒は『よ

そのもの』である」というヒンドゥー・ナショナリストの政治的意図を支持する誤った情報を流布するものである、とセキュラリストたちが懸念していることも同報告書に記載されている。

「国際社会における信仰の自由に関する報告書」2004年版は、インドにおける政権交代に伴い、新たに政権を掌握した統一進歩連合（United Progressive Alliance, UPA）が「前政権下で起こった教育のコミュニケーゼーションの趨勢を覆すために迅速な処置をとる」と言明したとして、教科書の再書き換えの動きがあることを伝えている [U.S. Department of State 2004]。

一方、アメリカの学校教科書のインド史記述について議論が最初に起こったのは、2004年ヴァージニア州フェアファクスにおいてであるとされる [Glod 2005; Visweswaran et al. 2009: 105; Kurien 2007: 204]³⁾。学校に通う子供を持つインド系市民の父母が、教科書のインドに関する記述はインドの文化について歪んだネガティブな印象を与えるものだとし、インド史の教え方を変えるようにロビー運動を行った。これを受けてフェアファクス郡は、ジョージ・ワシントン大学、ジョージタウン大学、ジョージ・メイソン大学の三名の宗教学・神学・芸術学研究者に教科書の見直しを依頼した。かれらの意見は、問題の教科書には事実に関する誤りはほとんどないが、内容に偏りがあり、記述のしかたもヒンドゥー教徒でありたい者の気がしれないと思わせるようなものがある、というものであった。出版社は教科書に控えめな修正を施し、見直しを依頼された研究者たちは修正された八冊を推薦し一冊の不合格を郡に提言した。このときのインド系父母の動きは特定の団体の関与によらない自然発生的な草の根運動のようなものであったらしい [Visweswaran et al. 2009: 105]。

一方これとは別に、2004年9月、ニュージャージー州ラトガース大学において、インドの遺産を守る教育者の会 (Educators' Society for the Heritage of India, ESHI) 第1回集会被開催された [Educators' Society for the Heritage of India 2005; Visweswaran et al. 2009: 105]。同会はその前年にニュージャージー州で設立された団体で、学校教育などにおけるインドの伝統についての情報が不正確であることを懸念して設立されたとウェブサイト述べている。第1回集会被は世界ヒンドゥー協会アメリカ支部 (Vishwa Hindu Parishad of America, VHPA) と密接な関係にあるとされるヒンドゥー学生会議 (Hindu Students Council) [Rajagopal 2000: 476-478; The Campaign to Stop Funding Hate n.d.; Wikipedia on Hindu Students Council n.d.; cf. Kurien 2007: 145] が後援していた。この集会被の様子を報じる同会の2005年3月のニュースレターは、学校教科書の内容見直しに関与していく意向を表明し、当面の対象としてテキサス、カリフォルニア、フロリダの三州を挙げている。集会被ではアメリカにおける教育が議論され、テキサス州のヴェーダ財団 (Vedic Foundation, VF) からの参加者がインドについての学校教育の改善にむけて団結をよびかける講演を行った。ヴェーダ財団は翌2005年にカリフォルニア州教科書改訂に対する大規模な修正申し立てを行う当事者のひとつとなる。

2005年ごろのアメリカではこのように、学校教科書におけるインド関連記述について、学校に通う子供をもつインド系市民が関心を抱き意見を公にする空気が形成され始めていたとともに、より政治的な背景をもつヒンドゥー団体もまた、学校教科書に活動の焦点を当て始めていた。インドに

においては、21世紀初頭の全国規模の歴史教科書書き換えは、20世紀末からの BJP 政権の台頭に連動していた。これに対してアメリカにおけるインド史教科書書き換えの動きは少し遅れ、インド本国で BJP 政権が下野してからのことである。21世紀初頭という時期は特にアメリカでは大きな意味をもつ。2001年の9.11同時多発テロ事件以降、教科書に宗教をどう記述するかが教育界にとって大きな関心事になったとともに、自分の宗教がどう記述されているかについて注意を払う宗教団体が目立つようになった [藤原 2011a: 138-148]。後述するように、カリフォルニア教科書改訂において修正申し立てをしたヒンドゥー団体はいずれも、アメリカおよびインドのヒンドゥー・ナショナリスト組織との水面下での関係が指摘されている。このため、インドとアメリカの教科書書き換え運動は連続しているとみる研究者もいる [Visweswaran et al. 2009]。

3. カリフォルニア州歴史社会教科書改訂

3-1. ヒンドゥー団体による修正申し立て

カリフォルニア州教育委員会 (California State Board of Education, SBE) は6年ごとに主要科目の学校教科書の改訂を検討する。2005年には歴史・社会 (history-social science) の教科書がとりあげられた⁴⁾。2005年1月、教育委員会の要請に応じて、11の出版社が第6学年歴史社会教科書の新しい版を提出した。「カリフォルニア公立学校歴史社会内容基準」が定めるところでは、第6学年の歴史社会科が扱うのは世界史と地理のうち古代文明である [California Department of Education 2000: 23-26]。提出された教科書は内容検討委員団 (Content Review Panel, CRP) と教材諮問委員団によって吟味され、結果報告が同年9月に公表された。9月末に公聴会が開かれ、ユダヤ教団体、イスラーム団体、ヒンドゥー団体がそれぞれ多くの修正を申し立てた。

古代インド史におけるヒンドゥイズムの記述について教科書の修正を申し立てたのが、アメリカのヒンドゥー教育財団 (Hindu Education Foundation, HEF) とアメリカのテキサスに本拠をおくヴェーダ財団 (VF) である。いずれも特定の組織・団体との関係を公に言明してはいないが、アメリカおよびインドのヒンドゥー・ナショナリスト組織とつながりがあると研究者たちによって指摘されている団体である。VFは2003年ごろにテキサス州オースティンで設立された団体で、「ヒンドゥイズムの偉大さの再確立」をウェブサイトにおいて標榜している。設立者 Swami Prakashanand Saraswati の著書 *The True History and Religion of India* (1999) は世界ヒンドゥー協会 (Vishwa Hindu Parishad, VHP) が1999年に組織したニューデリー世界宗教会議で賞を受けたとされる [Kurien 2007: 156]。一方 HEF は「アメリカの一般社会および学術界におけるヒンドゥイズムとヒンドゥーへの誤った理解を正し、宗教の多様性を守り、平和と調和をめざす」旨をウェブサイトで述べている団体である。HEF のウェブサイトには HEF がヒンドゥー奉仕団 (Hindu Swayamsevak Sangh, HSS) と合同で開催した行事などの記事が載っている。HEF/VF とヒンドゥー・ナショナリスト組織の関係について、ヴィシュヴェーシュワランらは、HEF は HSS と、VF は世界ヒンドゥー協会アメリカ支部 (VHPA) と、

それぞれつながりがあるとし、さらにその背景として、VHPA とインドの VHP の連携関係、HSS とインドの民族奉仕団 (Rashtriya Swayamsevak Sangh, RSS) との関係あげている [Visweswaran et al. 2009: 106]⁵⁾。

HEF/VF が提出した教科書修正案のうち、公式に審議されたものはおよそ 170 の項目にのぼった。2005 年 11 月 8 日付でカリフォルニア教育課 (California Department of Education, CDE) からカリフォルニア州教育委員会に送付された文書「2005 年歴史社会科一次採択表」(以下「一次採択表」)には、HEF が申し立てたうち 96 項目、VF が申し立てたうち 77 項目について、問題にされた教科書の原文と HEF/VF による修正案が掲載されている [California Department of Education 2005: 77-105]。

各団体の修正案が大量であったため、カリフォルニア州のカリキュラム委員会 (Curriculum Commission) は修正案を検討するために暫定委員会 (Ad Hoc Committee) を設けた。ヒンドゥー団体が提出した修正案については、HEF の推薦したカリフォルニア州立大学ノースリッジ校名誉教授シヴァ・バージペーイー博士 (歴史学) が、カリフォルニア教育課の要請で検討にあたった。同博士は HEF と VF が提出した修正案をほぼそのままは認し、暫定委員会は同博士の是認にもとづく暫定委員会意見を「一次採択表」に記した [United States District Court, Eastern District of California 2006: 5; United States District Court, Eastern District of California 2009a: 9]。

HEF/VF が申し立てた修正事項は、「ヒンディー語はアラビア文字で表記される」などの単純な誤りの訂正 (HEF 修正案第 23 項) のほかに、より複雑な問題に関する記述の書き換えや文章の削除をも数多く含んでいた。特に修正申し立てが集中したテーマは大きく分けて四つある。すなわち、古代インド史における (1) 女性の社会的地位、(2) カースト制度、(3) 多神教思想、(4) アーリア人の侵入・移民説である。

後述するように、HEF/VF 修正案とそれらについての暫定委員会の意見に対しては、のちに南アジア研究者たちから批判が寄せられ、修正案はバージペーイー博士とさらに他の古代インド史専門家たちによって再検討されて、最終的には多くが退けられることになった。以下に、上記の四つのテーマに関する HEF/VF の修正案のうち、特に、のちに暫定委員会の意見が疑問視されて再検討されることになったものの代表的な例を挙げる。それぞれの修正案が最終修正案でどのような扱いになったかは註に記す。

(1) 古代インドにおける女性の社会的地位

Glencoe/McGraw-Hill 版教科書 245 頁第 2 段落：

「男性は女性よりも多くの権利を有していた」。

これに対する HEF 修正案第 19 項：

「『男性は女性とは異なる義務 (ダルマ) と権利を有していた。ヴェーダの啓示を受けた聖者に

は多くの女性が含まれていた』と書き換えよ。』

この修正案について、暫定委員会は「書かれた通りに修正案を承認せよ」と是認した⁶⁾。

Macmillan/McGraw-Hill 版教科書 244 頁第 2 段落：

「男性は女性よりも多くの権利を有していた。家族に男子がない場合を除いて、男性だけが財産を相続することができた。男性だけが学校に通いあるいは祭官になることができた」。

これに対する HEF 修正案第 45 項：

「『男性は女性とは異なる権利と義務を有していた』と書き換えよ。最後の文のあとに、『女性の教育は主として家庭内で行われた』と付け加えよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した⁷⁾。

(2) 古代インドのカースト制度

Prentice Hall 版教科書 181 頁第 2 段落：

「[アーリア人の] 社会が現地の人々に溶け込むと、『リグヴェーダ』後期の讃歌が四つのカーストを描写した」。

これに対する HEF 修正案第 80 項：

「『リグヴェーダ』後期の讃歌は四つの社会階級の相互関係と相互依存を描写している』と書き換えよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した⁸⁾。

Prentice Hall 版教科書 181 頁：

「インド・アーリア人がインダス川渓谷に到達したとき、かれらの社会はすでに三つの社会階級をそなえていた。すなわち祭官、支配者、庶民である。かれらは間もなく、その地域に前から住んでいた土着の人々のために第四のカーストを加えた」。

これに対する HEF 修正案第 81 項：

「これらの文を削除せよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した⁹⁾。

Prentice Hall 版教科書 182 頁第 4 段落：

「現代のインドではこれらの人々は今ではダリットとよばれ、人を不可触として扱うのは法に反する犯罪である」。

これに対する HEF 修正案第 86 項：

「『現代のインドでは人を不可触として扱うのは法に反する犯罪である』と書き換えよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した¹⁰⁾。

Teachers' Curriculum Institute 版教科書 145 頁最終段落：

「カースト制度はヒンドウイズムがいかにインドの日常生活構造に織り込まれたかのほんの一例である」。

これに対する HEF 修正案第 93 項：

「この部分を削除せよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した¹¹⁾。

Glencoe/McGraw-Hill 版教科書 238 頁：

「アーリア人はカースト制度を作った」。

これに対する HEF 修正案第 17 項：

「『ヴェーダ時代には、特定の職業を引き受ける能力に応じて、人々は異なる社会集団（ヴァルナ）に分けられた。集団の所属資格は世襲のものではなかった。中世にはヴァルナ制度はより厳格なカースト制度に結晶化した』と書き換えよ」。

暫定委員会は「修正案の一つ目の文だけを用いよ」と是認した¹²⁾。

(3) 古代インドの多神教思想

Teachers' Curriculum Institute 版教科書 146 頁：

「かれらの神々 (gods) と心を通わせるために、古代のヒンドゥー教徒は・・・」。

これに対する VF 修正案第 53 項：

「『神 (God) を礼拝するために、古代の・・・』と書き換えよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した¹³⁾。この修正案の前後 (VF 修正案第 51 から 58 項) には「神々」

や「ブラフマン」を大文字単数の「神 (God)」と置き換えるべきとする修正案項目が並んでいる。

(4) アーリア人侵入・移民説¹⁴⁾

Teachers' Curriculum Institute 版教科書 144 頁：

「紀元前 1500 年ごろ、アーリア人とよばれる侵略者が北インドを征服した。ヒンドゥイズムをインドにもたらしたのはアーリア人の功績だとする歴史家もいる」。

「おそらくはヒンドゥイズムはアーリア人の信仰とかれらが征服した人々の信仰の混交である。初期のアーリア人の信仰はヴェーダからとってヴェーディズムとよばれる。」

これに対する VF 修正案第 38 項：

「これらの記述は教科書から削除されるべきである」。

暫定委員会はこの修正案について見解を保留した¹⁵⁾。

Oxford University Press 版教科書 76 頁第 2 段落：

「インド・アーリア語の話者の言語と伝統がハラッパーの人々の旧来の慣習にとってかわった」。

これに対する HEF 修正案第 68 項：

「『インド国内の他の場所から来た人々がとってかわった』と書き換えよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した¹⁶⁾。

Macmillan/McGraw-Hill 版教科書 242 頁最終段落：

「それに続く時代には、アーリア人とよばれる人々の集団がその地域に定住を始めた。間もなく新たな文明が現れた」。

これに対する HEF 修正案第 43 項：

「『それに続く時代には、インド国内の他地域から来た人々がその地域に定住を始め、ハラッパー文明を豊かにした』と書き換えよ」。

暫定委員会はこの修正案を是認した¹⁷⁾。

以上の例が示すように、HEF/VF 修正案は、古代インドにおける女性の社会的地位が低かったことを否定し、カースト制度への言及を避け、ダリットという語を削除し、多神教思想を示す「神々」の語を大文字単数の「神」と置き換えて古代インドの宗教思想を唯一神信仰として提示し、アーリア人への言及をなくすことを要求するとともに、ハラッパー文化（インダス文明）の後に開花した

文化（ヴェーダ文化）がインド国外からもたらされたものではなくインド起源のものであると教科書に明示することを求めるものであった。2005年10月31日の暫定委員会会合で、バージペーイー博士は「カリフォルニア公立学校歴史社会内容基準」が第6学年でその重要性を論じるよう定めているアリア人侵入説 [California Department of Education 2000: 25, section 6.5.2] について、学術的にはもはや支持されていない仮説であると主張した [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 9]。暫定委員会は前述のとおり同博士が支持した HEF/VF 修正案をほぼそのままは認し、同委員会の意見は「一次採択表」に記されて11月8日に教育委員会に提出された。

3-2. 研究者たちによる異議申し立て

教科書の採択についての教育委員会会合は2005年11月9日に予定されていたが、その直前になって、HEF/VFが要求し暫定委員会がこれを是認して教育委員会に提出した修正案について、南アジア研究者たちから異議の声があがった。まず11月3日にカリキュラム委員会のチャールズ・マンガー博士が教育委員会に「アリア人侵入説はスタンフォード大学とカリフォルニア大学において学部レベルで教えられている」という書状を提出した。

11月8日に、ハーヴァード大学サンスクリット学教授ミヒヤエル・ヴィッツェル博士が、ヒンドゥー団体の要求している修正は学術的なものではなく政治的・宗教的動機によるもので、古代インド史専門家一般およびヒンドゥー主流派の見解から外れたものであること、ヒンドゥー・ナショナリストすなわちヒンドゥットヴァによるこのような動きは初めてのことでなく、インド国内においてもすでに教育界から排斥されたもので、受け入れるべきではないこと、などを述べた書状を教育委員会に提出した [Witzel 2005]。この書状の結びには、もしカリフォルニア州教育委員会が問題の修正案を受け容れるなら「まちがいなく国際的な教育スキャンダルとなる」と述べられていた。インドにおける教科書書き換えに言及しているアメリカ国務省の「国際社会における信仰の自由に関する報告書」(前出)へのリンクも記されていた。この書状にはアメリカのみならずヨーロッパおよびアジア各国の南アジア研究者47名の署名が付されていた。日本からは東京大学、東京外国語大学、京都大学のサンスクリット・インド学の教授がこの書状に名を連ねている。かつてアメリカ議会図書館のフェローであったインド歴史学者ロミラ・ターバル博士もこの書状に署名していた。カリキュラム委員長はターバル博士に連絡をとり、バージペーイー博士が支持した HEF/VF 修正案の論評を依頼した。ターバル博士は簡単な論評を行い、修正案を教科書に受け入れるべきではないこと、バージペーイー博士よりも学術的研究を行なっている研究者たちの協力を仰ぐべきであることを提言した。

2005年11月9日、教育委員会は教科書承認に関する会合を開催した。会合ではヴィッツェル博士の書状が読み上げられた [United States Court of Appeals, For the First Circuit 2008]。その後、カリフォルニア教育課はさらに3名の古代インド専門家に協力を要請した。すなわち、カリフォルニア大学ロサンゼルス校スタンレー・ウォルパート博士、カリフォルニア大学デイヴィス校ジェイムス・

ハイツマン博士、ハーヴァード大学ミヒヤエル・ヴィッツェル博士である。この3名はHEF/VF修正案を検討したうえで改訂案をカリキュラム委員会に提出した。教育課はこの3名の意見にもとづいてカリキュラム委員会用の文書を作成した。12月2日、カリキュラム委員会は修正案と専門家たちの意見を検討し、教育委員会に向けて修正案勧告を作成した。この勧告は153項目からなっていたが、教育課の数えたところでは、うち97項目が上記の3名の示した意見とまったく相反していたとされる [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 14]。12月7日にはこのように同3名の意見を退けたカリキュラム委員会に抗議するとともに、HEF/VFはヒンドゥー至上主義の過激派運動と関係のある団体だと警告する書状が、約130名の研究者の署名とともに教育委員会に届いた。同日ヴィッツェル博士は再度各国の研究者を代表して教育委員会に書状を提出し、カリキュラム委員会の勧告を却下してヴィッツェル、ウォルパート、ハイツマンの3名による改訂案を採択するよう求めた。

HEF/VF修正案に反対の意を表したのは南アジア研究者だけではなくた。複数の南アジア関連団体が教育委員会の公開会合に出席して反対意見を述べた¹⁸⁾。これらの中には複数のダリット団体が含まれており、カースト制度の存在を否定しダリットの語を教科書から削除する修正案は、最下層民ダリットがこれまでに受けてきたさまざまな差別と迫害を婉曲化するものだとする抗議状が教育委員会に提出された [Friends of South Asia n.d.; Kurien 2007: 244]。同種の抗議は女性団体やジェンダー学研究者たちからも寄せられた [do.]。

3-3. 教科書の最終承認

2006年1月6日、教育委員会はユダヤ教、イスラーム、キリスト教、ヒンドゥイズムに関する教科書修正案を議論する非公開の会合を開催し、暫定委員会によるすべての修正案を検討した。ヒンドゥイズムに関する修正案についてはヴィッツェル博士とバージペーイー博士が検討にあたり、討論を行った。両博士は多くの修正案について合意に達したが、のちに訴訟で問題になるいくつかの主題に関する修正案については、意見の一致をみることなく終わった [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 15]。この後、学術的観点、一般からの意見、カリキュラム委員会の勧告に対する教育委員会の懸念などを汲んで、新たな勧告が教育委員会と教育課によって作成され、「2月27日修正案・訂正表」(“February 27 Edits and Corrections List”)に記されて、2月27日の公開会合にむけて公開された [California Department of Education 2006a: 93–126]。

この「2月27日修正案・訂正表」が実質的に最終修正案となった¹⁹⁾。これには古代インド史に関する153項目について、HEF/VF修正案、暫定委員会の意見、それに対する教育委員会と教育課の勧告が記載されている。勧告の内容は、HEF/VFの修正案に対する暫定委員会の意見の多くを退け、HEF/VFによる修正申し立て以前の文案に戻すか、短く書き直した項目が多いものとなっていた。すなわち、古代インドの歴史において、男性が女性より多くの権利を有していたこと、アーリア人の

古代社会がカースト制度を有していたこと、複数の神格が存在したこと、ハラッパー文化（インダス文明）の後、他の地域から来た人々がその地域に文化を築いたこと、などを教える内容である²⁰⁾。2月27日に開催された公開会合では、のちに結成される教材の平等化を求めるカリフォルニア父母の会（California Parents for the Equalization of Educational Materials, CAPEEM）のメンバーを含むおよそ104名が発言した。3月8日に公開会合が開催され、およそ49名の発言を公聴した後、教育委員会は第6学年歴史社会教科書について教育委員会と教育課が勧告した修正案を承認した。

4. カリフォルニア州教科書改訂をめぐる訴訟

4-1. Hindu American Foundation 裁判

教科書改訂審議は以上で終了したが、その結果を不満として、二件の訴訟が起こされた。

一件は、ヒンドゥー・アメリカ財団（Hindu American Foundation, HAF）がカリフォルニア州教育委員会に対し、いくつかの教科書の承認取り消しを求めて、2006年3月16日に起こしたものである²¹⁾。HAFは2004年にカリフォルニア州で設立された団体で [Kurien 2007: 159]、いかなる宗教・政治団体とも提携していないと名乗っているが [Hindu American Foundation n.d.[3]]、世界ヒンドゥー協会アメリカ支部（VHPA）およびヒンドゥー奉仕団（HSS）と近い関係にあると指摘されている²²⁾。HAFの主張は、教科書の改訂・承認の手続きが行政手続法（Administrative Procedures Act）に則っておらず、承認プロセスのいくつかの段階で会合が非公開ないし周知不徹底だったのはバグリー・キーン公開会合法（Bagley-Keene Open Meeting Act）に反しており、教科書の内容も多くの点で法的規準に従っていないため、承認は違法だというものであった。この訴訟に対する判決文 [Superior Court of the State of California, County of Sacramento 2006] は同年9月1日に公示され、これに対するHAFの控訴が2007年7月12日に却下されて結審した [United States District Court, Eastern District of California 2008: 8-9; Hindu American Foundation 2007]。判決は、行政手続法については原告の主張を認め、被告が教科書承認プロセスに関して法的基準を満たさなかったとして、将来的には同法に沿うように不備を正していくように求めた。その一方で、問題にされた教科書の内容については、法的規準に違反していないとして、被告に教科書承認の取り消しや使用取り下げを求めないと結論した [Superior Court of the State of California, County of Sacramento 2006: 9-10]²³⁾。

判決文は、教科書のヒンドゥーの宗教の記述が不正確で、中立でなく、ネガティブに描写しているという原告の主張に対して、教科書の記述を検討し、次の論点について法廷の見解を詳述している [Superior Court of the State of California, County of Sacramento 2006: 7-9]。

(1) ヒンドゥーの神学の描写について。「神々と女神たち」という教科書の記述はすべての神格を唯一の絶対神のさまざまな表現型であるとみなすヒンドゥーの信仰を的確に表現していない、という原告の主張については、教科書は広く的確にヒンドゥーの信仰の概要を記述しており、それが法の要求するすべてであるとした。

(2) アーリア人侵入・移民説について。いわゆるアーリア人侵入説ないしアーリア人移民説の教科書による扱いが不正確である、この問題については学界で論議が続いていることを明示すべきである、という原告の主張については、侵入・移民説が一般に受け入れられていないことを示すものは現時点ではないこと、また被告が主張しているように「カリフォルニア公立学校歴史社会内容基準」は第6学年でインドにおけるアーリア人侵入を学ぶことを規定しており、この基準については当該訴訟では問題にされていないことをあげ、アーリア人侵入・移民説への言及は大きな誤りでもなく法に違反してもいないとした。

(3) カースト制度および女性の社会的地位について。教科書はヒンドゥーの宗教を他の宗教に比して劣ったもののようにネガティブに描写している、特にカースト制度と女性の低い社会的地位を過度に強調しているのは中立ではなく法の要件に反する、という原告の主張については、カースト制度への言及自体は違法ではないこと、ヒンドゥーの宗教とその信仰者に対して侮蔑的で偏見をよびおこすほどのものとしてカースト制度が提示されているとまではいえないこと、教科書はカースト制度の起源をヒンドゥーの宗教信仰の本質としてというよりはアーリア人の侵入・入植の結果として生じた社会構造として描写しようとしていると考えられること、ヒンドゥイズムと他の宗教とを批判的に比較する出発点としてカースト制度を用いているわけではないことをあげ、教科書は中立性の要件を満たしているとした。さらに、古代インド社会における女性の地位の記述についても法廷は同様の結論に達したとした。

判決は、承認の過程で行政手続法違反があったものの、教科書の内容には関係する法の規準に触れるところがないため、教科書の承認を無効にすることも使用を中止することも要求しないとしている。

4-2. CAPEEM 裁判

もう一件の訴訟はこれに先立つ2006年3月14日に起こされた。最終修正案承認直後の3月9日、第1から第6学年の公立学校のインド系の生徒の父母を中心に、カリフォルニア州公教育におけるヒンドゥーの宗教の正確な描写の推進を標榜して、教材の平等化を求めるカリフォルニア父母の会 (CAPEEM) が結成された。CAPEEM は、教科書承認のプロセスにおいて CAPEEM のメンバーを差別したとして、また、承認された第6学年社会科教科書はヒンドゥイズムを差別的な視点で提示しているとして、まず教育委員会と教育課を、のちに教育委員会と教育課に所属する数名の個人を訴えた²⁴⁾。提訴の根拠は、承認された教科書と承認に至るプロセスが、国教樹立禁止条項 (Establishment Clause)、言論と結社の自由条項 (Free Speech and Association Clauses)、平等保護条項 (Equal Protection Clause) に違反するというものであった。この訴訟は結審まで3年を要した。

国教樹立禁止条項に関して、CAPEEM は、承認された教科書のキリスト教およびユダヤ教の記述が、生徒をそれらの宗教に教化しようとするものであると訴えた。法廷はこの訴えを退けた。裁判

所は過去の判例と照らし合わせつつ、問題の教科書の内容が国教樹立禁止条項に反するものとはいえない理由を詳述している。問題の第6学年歴史社会教科書の承認と使用について、国教樹立禁止条項に関しては被告の反論を認める、カルフォルニア州教育におけるヒンドゥーの宗教の正確な描写の推進という設立目的に鑑みて CAPEEM はこの条項を持ち出す立場にない、というのが法廷の判断であった [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 2-4; 24-29; 43-60; 63]。同じ理由で、ヒンドゥイズム以外の宗教の記述に関して、CAPEEM は平等保護条項、国教樹立禁止条項、言論と結社の自由条項を持ち出す立場にはないとされた [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 30]。

言論と結社の自由条項に関して、原告は、CAPEEM とその他のヒンドゥー団体が第三者の「ヒンドゥトヴァ」「ヒンドゥー・ナショナリスト」団体と関係があると被告が考えて HEF/VF 修正案を退けたことによって、被告が CAPEEM メンバーの言論と結社の自由の権利を挫いたと主張した。この主張については、原告が十分な証拠を提示していないとして、被告の反論が認められた [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 60-62]。

平等保護条項に関して、原告は、教科書の内容がこの条項に反すると訴え、教科書がヒンドゥーに対して差別的であり、ヒンドゥーの生徒に心理的な害を与え教育の機会を失わせると主張した。法廷は、平等保護条項はカリキュラムの内容に対して異議を唱える根拠にはならないとして、同条項に関して、教科書の内容については原告の主張を退け、被告の反論を受け容れた [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 34-36; 63]。

一方、同じく平等保護条項に関して、原告は、教科書承認プロセスにおいて、被告の差別的意図によって CAPEEM のメンバーが他の団体とは異なる扱いを受けたとも訴えた [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 36-37]。原告は、HEF/VF 修正案を支持したヒンドゥー団体のみに対して手続き上の反則があった、被告側に特定のヒンドゥー団体に対する敵意があった、と主張した。

手続き上の反則例として原告があげたのは、(1) 他の宗教団体の修正案には課さなかった様式についての要求をヒンドゥー団体の修正案に課した、(2) 他の宗教団体には課さなかった恣意的な期限をヒンドゥー団体の提言に課した、(3) ヒンドゥー団体の修正案を査定するためにヒンドゥー団体と対立する専門家たちしか委嘱しなかった、(4) HEF/VF 修正案を支持したバージペーイー博士は資格審査を受け、同修正案の支持団体や教科書出版社との関係に制限を課されたのに対して、被告が委嘱した修正案に反対する立場の専門家たちにはこれらを課さなかった、(5) 他の宗教団体に関しては認められた類似の種類の修正案がヒンドゥー団体による修正案に関しては認められなかった(神を大文字 God で記述するというユダヤ教団体の要求は認められたが同じ要求がヒンドゥー団体の場合は認められなかったなど)、というものであった [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 37-39]。

さらに、ヒンドゥー団体に対する敵意の証拠として原告があげたのは、(1) 原告はヴィッツェル博士がヒンドゥー団体に偏見を抱いていると主張しその旨を被告に伝えたにもかかわらず、被告が同博士に相談し同博士を承認プロセスに関わらせつづけた、(2) 被告が HEF/VF のことを神学的にいらだたせるといって非難した、(3) カリキュラム委員会のマンガー博士が HEF/VF 修正案を「ばかっている」とよんだ、(4) 同委員会のトム・アダムス博士が VF メンバーのコメントを「インド史のナショナリスト的解釈」であるとよんだが同メンバーはアメリカ出身である、などであった [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 39-40]。

教科書承認プロセスにおいて CAPEEM メンバーが意図的に差別されたという原告の主張について、特定のヒンドゥー団体に対して敵意が示された、HEF/VF 修正案を支持したヒンドゥー団体に対してのみ手続き上の反則があった、という原告の主張は根拠あるものと認められた。平等保護条項に関して、法廷は、教科書承認プロセスについては被告の反論を退けた [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 36-42]。

公判の過程で、CAPEEM は関係する多くの個人・団体・出版社に文書・資料開示を求める召喚状 (subpoena) を発した。特にヴィッツェル博士に対しては、教科書承認プロセスにおいて同博士が中立ではなく偏見と敵意を抱き、秘密裡のプロセスに携わっていたことを示すためなどの名目で、関係する個人や団体とのやりとりを含む資料開示を求める召喚状を 2007 年 5 月に発した。CAPEEM は 2006 年 8 月 25 日付の修正訴状にヴィッツェル博士が 2005 年 11 月 8 日付で教育委員会に提出した前出の書状の写しを添え、人身攻撃的な宗教的・政治的攻撃であるとし、教育委員会のメンバーがこれを受け入れたと非難している [United States District Court, Eastern District of California 2006: 12-14; 24-28]。同博士は CAPEEM の要求に応じて多くの資料を開示したが、訴訟に関わっていない個人や出版社とのやりとりなど一部の資料については開示を拒否し、保護命令を申し立てた。CAPEEM は同博士の居住するマサチューセッツ州地方裁判所に強制開示を申し立てた [United States District Court, District of Massachusetts 2007]。裁判所は CAPEEM が要求する資料は妥当なものではないとして強制開示命令を出さなかった。CAPEEM は控訴したが、控訴裁判所はこれを却下した [United States Court of Appeals, For the First Circuit 2008]。

こうして、CAPEEM 裁判では、国教樹立禁止条項、言論と結社の自由条項に関しては、原告に反論した被告側の主張が認められた。平等保護条項に関しては、教科書の内容については被告側の主張が認められ、一方で、教科書審議のプロセスに原告が平等に参加する機会を与えられなかったという原告の主張については、被告側の反論は退けられている [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 5; 62-63]。最終的にこの件は、被告が原告 CAPEEM 側に 175,000 ドルを支払うことで 2009 年 6 月に和解して決着した [United States District Court for Eastern District of California 2009b; 2009c]。

4-3. 訴訟の結果

以上のように、カリフォルニア州教科書改訂をめぐる二件の訴訟はいずれも、ヒンドゥー団体によって提示された修正案の多くが南アジア研究者たちによって否定された形で承認された教科書について、法廷はその内容については違法でないと認定する一方で、承認プロセスには法的な過失があり、ヒンドゥー団体に対して不公平な扱いがなされたと認定している。

訴訟の結果という面からみると、教育委員会にとっては、度重なる審議の末に承認した教科書について、教科書の内容とその承認は適法とされた一方で、承認プロセスには問題があったと法廷で判定され、和解金を支払うことになった、部分的勝訴である。教科書に当初の修正案を提出したヒンドゥー教育財団（HEF）とヴェーダ財団（VF）、教科書の承認を不満として提訴したヒンドゥー・アメリカ財団（HAF）と教材の平等化を求めるカリフォルニア父母の会（CAPEEM）にとっては、かれらの提唱する歴史解釈を教科書に反映させることには失敗し、教科書の内容の違法性も認められなかった一方で、承認プロセスにおいてヒンドゥー団体に対する不公平な扱いがあったことを法廷に認めさせることには成功した。またCAPEEMは多額の和解金を得た²⁵⁾。訴訟という観点からみれば、かれらもまた部分的勝訴を得たことになる。HAFの加入勧誘パンフレットは、HAFの成功した業績のひとつとしてカリフォルニア州教科書問題を挙げ、「ヒンドゥイズムの誤った提示と、教科書承認プロセスにおいてヒンドゥーの扱いが不平等であったことについて、カリフォルニア州教育委員会を相手取った訴訟に勝利した」としている [Hindu American Foundation n.d.[1]]。

カリフォルニア州教科書改訂をめぐる一連の論争と訴訟では、訴訟の当事者は一部のヒンドゥー団体とかれらが提訴したカリフォルニア州教育委員会・教育課およびそのメンバーであるが、論争のもうひとつの当事者は、ヒンドゥー団体の修正案に反対し、教科書の最終修正案作成に協力した、ヴィッツェル博士とかれを支持した南アジア研究者たちであった。一部のヒンドゥー団体の偏った歴史解釈を教科書に持ち込ませてもらえないと警告する立場をとったヴィッツェル博士およびこれを支持した研究者たちは、訴訟の直接の被告となったわけではないが、最終修正案からHEF/VFの提示した修正の多くを退けさせることに成功し、さらに最終修正案の内容および承認が妥当であったと法廷が判定したことから、この論争においていわば全面的に勝利を取めたといえる。

5. 古代インド史教科書問題と現代アメリカ社会

5-1. アメリカ社会に対するヒンドゥー団体の反発

古代インド史の記述に関するアメリカ初の本格的な教科書問題がカリフォルニア州で起きたことはまったくの偶然というわけではなかった。カリフォルニア州には歴史的に移民が多いうえ、インド系市民の人口はアメリカ国内で最大であるとされ、かつ増大を続けている²⁶⁾。さらに、州人口が全米一多いため、教科書の購買数も多く、採択結果が教科書市場に及ぼす影響が大きい [藤原 2011a: 141]。第2章でふれたインドの遺産を守る教育者の会（ESHI）が2004年に教科書の見直しに

関与していく対象としてテキサス、カリフォルニア、フロリダをあげたのも、これらの州が有数の大人口州でありインド系も多数居住していることが関わっていたであろう。なかでも直近の教科書改訂をひかえていたのがカリフォルニア州だったのである。

カリフォルニア州教科書の古代インド史記述をめぐる論争で浮き彫りになった問題は、法廷の判定によってすべて解消されたわけではない。二件の訴訟において記録されているヒンドゥー団体の主張には、アメリカの法に則っているかどうかという観点から是非を判定する司法の場で解決することはできないような、一部のインド系アメリカ市民のアメリカ社会に対する反発の感情が表現されている。アメリカは多様性を誇る移民国家であるが、宗教の面ではキリスト教徒が人口の大きな部分を占めている。特定の宗教を優遇することは禁止されており、社会的な文脈での神と宗教は「市民宗教 (civil religion)」という形に抽象化されるが、アメリカ社会で一般に用いられる「神 (God)」の語とその概念にはあくまでもキリスト教の色あいが濃い²⁷⁾。暗黙の了解のもとにキリスト教を基盤としているアメリカの価値観は、異文化・異教徒への対応が無意識の偏見と蔑視をはらむことがままある。カリフォルニア州教科書論争には、このようなアメリカ的価値観に対してインド系市民の一部が抗議の声をあげたという一面がある。

CAPEEM 裁判において、原告は「社会科教科書におけるヒンドゥーの宗教の軽蔑的で不平等な扱いに異議を申し立てる」と述べている [United States District Court, Eastern District of California 2006: 2]。何に比べて「軽蔑的」で「不平等」な扱いを受けたかについて、原告の主張からは、かれらが特にキリスト教およびユダヤ教のアメリカ社会における相対的優位に対して抗議していることが読みとれる。CAPEEM の訴状には、教科書の記述が「ユダヤ・キリスト教的 (Judeo-Christian)」な概念や枠組みに拠るものであるという主張が繰り返し現れる [United States District Court, Eastern District of California 2006: 2; 10-11; 23; 25]。

CAPEEM の訴えのひとつに、問題の教科書が生徒をキリスト教ないしユダヤ教に教化するものであり、アメリカの国教樹立禁止条項に反する、というものがある。裁判においてこの主張は、前述のように、ヒンドゥーの宗教の正確な描写推進という同者の設立目的に鑑みて持ち出す立場にないとして退けられた。古代インド史に関する教科書記述について争う裁判において、この主張は一見場違いであるようにみえるが、これは現代アメリカ社会においてマイノリティーであるヒンドゥーが、マジョリティーの宗教であるキリスト教を基盤としているアメリカの世界観に対して抱いている被差別意識と、アメリカ的価値観に対して不本意な劣等意識を抱かされているという反発の感情を、法的な用語で表現しようとした試みであると考えれば理解できる。

HEF/VF 修正案の眼目のひとつに、古代インドの宗教思想を多神教としてとらえられることを拒否し、唯一神 (大文字の God) 信仰のさまざまな表現型として提示するというものがある。ここにも唯一神を奉じる宗教として記述されるユダヤ・キリスト教的宗教文化への対抗意識と、アメリカで多神教とみなされることは「神 (God)」をもたない文化として蔑視をうけることであるとい

う危惧がうかがえる。一神教を当然の前提と考える世界観、すなわち広い意味でキリスト教を土台とした現代アメリカの主流を占める宗教・文化的価値観に対して、インドという異国にルーツを持つヒンドゥー文化が、反発の感情と適応の努力とのせめぎあいに揺れていることがみてとれる。多くの公立学校で「神の下の方 (one Nation under God)」という語句を含む「忠誠の誓い (pledge of allegiance)」の暗唱が行われるアメリカでは²⁸⁾、インドの神々をあえて唯一神として提示せざるをえないような社会文化的プレッシャーが強いものと推測できる。

CAPEEM は訴状で、問題の教科書はユダヤ・キリスト教の信仰については正確に描写しているのに²⁹⁾、ヒンドゥーの宗教について、特にアーリア人侵入説、女性の扱い、不可触民、神観念に関して不正確かつネガティブに描写している、そしてそれによってユダヤ・キリスト教の信仰を推奨していると主張している [United States District Court, Eastern District of California 2006: 23; 2; 7-11]。ユダヤ・キリスト教の描写に比べてヒンドゥイズムが不当にネガティブに記述されているという主張の背後には、アメリカの公立学校でインドについてこれらの主題がネガティブなニュアンスで描写され教えられることによって、ヒンドゥーの子供が周囲のキリスト教徒の子供から異教徒として奇異と差別のまなざしを受けることになる、というヒンドゥー団体の問題意識がみえる。ヒンドゥー団体が現代アメリカにおけるヒンドゥーの社会的立場を意識して教科書書き換えに介入したことは、学校教科書のヒンドゥイズムおよびインド史の記述によってアメリカ育ちのインド系の子供が恥ずかしい思いをさせられたり自信を失わされたりしているという以下の VF のウェブサイトにおける主張からもよみとれる。

合衆国に住むインド人の父母にとって、アメリカ育ちのかれらの子供にインドの伝統を教えヒンドゥイズムを説明するのはますます難しくなっている。(中略) 子供たちは学校で教わる事柄によって恥ずかしい思いをし、腹立たしく感じ、あるいは自信を失わされているのだ [Vedic Foundation n.d.]。

このようなインド系移民の父母の感情は、フェアファクス郡教科書問題においても表現されたものである。ヒンドゥーの子供がアメリカ社会で成長する過程でヒンドゥイズムとインドについてネガティブな感覚を押し付けられてしまう傾向を憂うインド系移民の感情は、草の根のレベルからヒンドゥー団体の運動指針のレベルまで、現代のアメリカで広くみられるとされる [Glod 2005; Kurien 2007: 192; cf. 67-71; Rajagopal 2000: 473-474]。

古代インド史に関するアメリカの教科書問題を、どの程度までいわゆるヒンドゥー・ナショナリズムと関連させてとらえるかは、このような感情に基づいた異議申し立てをどこまで当事者(父母たち)の主体的なものとするか、あるいはより政治的・組織的なものと評価するかにかかってくる。カリフォルニア州教科書問題を、あくまでもインドのナショナリスト組織とつながりのある在アメ

リカのヒンドゥー・ナショナリスト関連団体による組織的・計画的関与が引き起こした事案とみる
ヴィシュヴェーシュワランらは、

カリフォルニアのキャンペーンは、懸念を抱いたヒンドゥーの父母の努力というよりも、アメリカのヒンドゥー・ナショナリスト諸組織の一致協力した計画と準備の結果として現れたことが明らかである。ヒンドゥーの父母が教科書におけるヒンドゥイズムの描写を読んで抱くであろうもろもろの疑問はもっともなものでこれを軽んじるつもりはないが、重大なことは、父母たちや州教育関係者たちがヒンドゥトヴァあるいはヒンドゥトヴァ主導組織とそれとは知らずに協働しているかもしれないという点である。

と論じている [Visweswaran et al. 2009: 105–106]。

アメリカのインド系市民には教育水準や所得が比較的高い人々も多い。そうした市民の一部が程度の差はあれヒンドゥー至上主義的な思想を掲げてヒンドゥー活動家となり、あるいは集合してヒンドゥー団体を形成している [Kurien 2007: 144–162]。しかし、かれらの思想は必ずしもインドのヒンドゥー・ナショナリズムと同一ではなく、アメリカ社会での立場に対応したアメリカ版ヒンドゥー・ナショナリズムとでもよぶべきものである [Kurien 2007: 160–161]。また、アメリカのヒンドゥー団体ないしヒンドゥー活動家たちが、その母体である一般のインド系アメリカ市民の意見をつねに完全に代表しているわけではなく、より非宗教的な南アジア系団体とも立場を異にしていることにも注意する必要がある³⁰⁾。

アメリカ社会におけるヒンドゥイズムについて論じたクリエンは、アメリカ社会に「ヒンドゥイズムの根本的に誤った提示」があるとして反論の声をあげつつあるヒンドゥー活動家たちが、アメリカ人によってネガティブにとらえられがちな主題として注意を集中している中心的な問題に、ヒンドゥーの神観念、カースト制度、女性の地位の三点があると述べている [Kurien 2007: 186–188]。ヒンドゥーの神観念の問題とは、前述の、アメリカにおいて自分たちの宗教を多神教とみなされることへの危惧をさしている。カースト制度の問題とは、厳格な世襲の身分制度という、アメリカ的価値観からすれば後進的な文化を持つ異民族とみられることに対する反発をさす。ヒンドゥー文化において女性の地位が低いとみなされる問題も同様である [Kurien 2007: 187–188]。

カリフォルニア州教科書改訂において論争をよんだ修正案の主要テーマは、上述のとおり、古代インドにおける女性の社会的地位、カースト制度、多神教思想、アーリア人の侵入・移民説であった。これら四点のうち初めの三点は現代アメリカでヒンドゥー活動家が問題にしている主題としてクリエンがあげた三点と同じである。古代インド史に関する教科書問題において、これらのテーマは偶発的に争点となったのではなく、現代アメリカ社会においてヒンドゥー団体が自己イメージの提示に際して懸念を強めつつあった問題と連続していたとみられる [Kurien 2007: 204]。論争の主題

は古代インド史であったが、現代アメリカでヒンドゥー活動家たちがセンシティブになっている諸問題と連続しているかのようにとらえられ、カースト制度や女性差別は古代にも現代にも存在しない、インドの神々は古代から唯一神（の表現型）であった、という主張がなされたのである。アーリア人侵入・移民説は現代アメリカでの生活に直接関わりがある事柄ではなく、むしろインドでの歴史教科書書き換えの際に大きな争点になった問題であるが、インド系アメリカ市民のアイデンティティーのよりどころとして、ヒンドゥー文化がインド国外に由来するということはヒンドゥー至上主義的観点からはあってはならないことであった [Kurien 2007: 165-168]。

アメリカ国内で古代インド史について発言しているヒンドゥー団体にとっての主要な関心が実際には古代インドの史実ではなく現代アメリカのヒンドゥーの立場にあることが、カリフォルニア州教科書問題においてヒンドゥー団体と研究者たちとの議論が最後まで平行線をたどった要因のひとつであった。問題になった第6学年歴史社会教科書の学習対象は「世界の古代文明」であり、論争の一方の当事者である南アジア研究者たちは発言範囲をあくまで古代インドの歴史事実の記述に限定していた。他方、ヒンドゥー団体は、ヒンドゥイズムはインダス文明以来のインド土着の文化であるとしてその宗教としての優位性を主張するとともに、現代アメリカ社会において奇異の目で見られがちな多神教思想や女性差別、カースト制度が古代インドに存在したという記述を教科書から削除させようとした。この動きは研究者たちの見解と対立しただけでなく、前述のとおりダリット団体をはじめとする多くのインド系市民が HEF/VF 修正案への抗議に加わる事態を招いた。

5-2. アメリカ学術界とヒンドゥー至上主義の対立

クリエンによれば、21世紀に入る頃から、多数のインド系アメリカ人の第二世代が高校・大学に進学しはじめるにつれて、アメリカの教科書とアメリカ学術界によるヒンドゥイズムとインド史の提示について監視することが、アメリカのヒンドゥー社会の一部のひとつにとって主要な関心事のひとつとなり、これと並行して、ヒンドゥイズム、インド、あるいはヒンドゥットヴァの歴史観について何らかの批判的な立場をとる研究者たちに対する攻撃が目立ちはじめた [Kurien 2007: 192-206]。

欧米の学術界による植民地主義の押し付けとしてヒンドゥー・ナショナリスト運動が問題にしてきた主題のひとつにアーリア人侵入・移民説がある [Witzel 2006; 長田 2001; Kurien 2007: 163-168]。カリフォルニア州教科書問題において、HEF/VF 修正案はアーリア人侵入・移民説の否定を眼目のひとつにおいていた。ヴェーダ文化を担ったインド・アーリア語の話者が西方からインド亜大陸に流入したとするアーリア人侵入・移民説を否定し、サンスクリット語による古代インド文化をインド土着のものであるとする歴史観は、ヒンドゥイズムのみがインド起源の宗教であるとしてその絶対的優位を主張し、ムスリムおよびキリスト教徒を「よそもの」とであるとみなすヒンドゥー至上主義の立場につながる³¹⁾。HEF/VF 修正案についてカリフォルニア州教育委員会に警告を発したヴィッ

ツェル博士はヴェーダ文献学が主な専門であり、このような歴史解釈と南アジア研究学界の主流学説との齟齬についても詳しくあった。

ヴィッツェル博士がヒンドゥー至上主義的歴史観を批判して論争になった例に、2000年のインダス印章論争がある。2000年、古代インダス文明の未解読文字であるインダス文字を後期ヴェーダ・サンスクリット語 (late Vedic Sanskrit) で解読したと主張する書籍がN. S. ラージャラム博士によってインドで出版された³²⁾。インダス文字の言語同定はいまだに研究者によって見解がわかる問題であるが、このときは同書のあげた印章の図像の提示に問題があったため、アメリカの学界側には具体的な反論材料を与えることになった。ヴィッツェル博士はステイヴ・ファーナー博士と共同で、最古のサンスクリット文献『リグヴェーダ』に現れる馬の図像として同書が示したインダス印章は一角牛の図像を加工したものであることを指摘し、同書の説はインダス文明の遺跡ではこれまで発見されていない馬の存在を偽造してインダス文明と一般にその1000年は後とされているヴェーダ文化とを同一視しようとするヒンドゥー・プロパガンダであると批判した [Witzel and Farmer 2000; Thapar 2000; 長田 2001: 203–204; 内藤 2004: 10–11; Witzel 2006: 219; Kurien 2007: 168]。著者側はヴィッツェル博士らの批判に対して、欧米のインド学はヨーロッパ植民地主義とキリスト教伝道プロパガンダに源を発するもので、その生き残りをかけてみずからのアーリア人侵入説とヴェーダ文明外来説を守ろうと、対論者をヒンドゥー・プロパガンダよばわりしているのだ、と強く反発した [Rajaram 2000a; 2000b]³³⁾。

カリフォルニア州教科書問題では、ヴィッツェル博士とハーヴァード大学が脅迫、嫌がらせ、中傷の手紙および電子メールを受けとったとされる [United States Court of Appeals, For the First Circuit 2008; Zhou 2006]。また上述のように、教科書訴訟のうちCAPEEM裁判では、原告は同博士の教育委員会に対する書状を人身攻撃とよび、同博士にヒンドゥーに対する「偏見」と「敵意」があったとしてその証拠を保全するという名目で同博士に召喚状と長文の強制開示申し立てを發した。あるヒンドゥー団体指導者は教科書問題に介入した研究者たちを「学界のヒンドゥー嫌悪症 (Academic Hinduphobia)」と題して非難した³⁴⁾。これらをヒンドゥー至上主義によるアメリカ学界に対する攻撃の一環とみることもできる。

アメリカ学界とヒンドゥー活動家たちの対立の有名な例として近年知られているものに、21世紀に入る頃から顕著になり現在もなお続いている、シカゴ大学ウェンディ・ドニガー博士とその周辺の研究者たちに対する一連の激しい批判がある [Kurien 2007: 200–204; Wikipedia on Wendy Doniger n. d.]。ドニガー博士をはじめ、ジェフリー・クリパル博士、ポール・コートライト博士などの著作が、ヒンドゥイズムをグロテスクに描写し、ヒンドゥイズムに対する敬意を欠くもののだとして、ウェブ上で批判が繰り返されているほか、コートライト博士の著書の出版差し止め要求や、ドニガー博士の著書が全米批評家協会賞の最終選考に残ったことに対する抗議などが行われた。ドニガー博士批判を行っているヒンドゥー活動家の顔ぶれは、2000年のインダス印章論争や、2005–2009年の

カリフォルニア州教科書問題で、ヴィッツェル博士を攻撃したひとつと重なっており、批判にも似た言い回しが用いられている³⁵⁾。

ただし、ドニガー博士批判と、カリフォルニア州教科書問題におけるヴィッツェル博士への攻撃は、必ずしも同列に論じられるものではない。ドニガー博士らへの批判は独創的なヒンドウイズム解釈を述べた個人の著作に対するものである。一方、ヴィッツェル博士が教科書問題で古代インド史の記述について述べた意見は特に独創的なものではなく、通説として南アジア研究者一般に受け入れられている範囲の事柄である。カリフォルニア州教科書問題において攻撃の対象とされたのは、実際には同博士個人ではなく、同博士が代表する形になったアメリカ学术界そのものであった。

6. 結び

2005年に始まったカリフォルニア州歴史社会教科書改訂では、古代インド史の記述について、ヒンドゥー団体が提出した修正案と、その内容に異議を唱えて介入した研究者たちの意見が対立して論争となった。一時はヒンドゥー団体の修正案が是認されかけたが、ヒンドゥー団体の修正案の学術的過誤とかれらの政治的・宗教的動機を警告した研究者の意見をいれて再検討が行われ、教科書の内容は研究者の意見に沿う形に修正された。これが承認されて教科書改訂審議が終了すると、論争はさらに二件の訴訟に発展した。訴訟では、ヒンドゥー団体と教育委員会および教育課が、教科書の内容と教科書承認手続きの適法性について争い、その結果、教科書の内容については法的な問題はなるとされたが、その一方で、教科書承認のプロセスには教育委員会がわに不備があったと判定が下されて、2009年に結審した。

教科書の内容について、古代インドの歴史と文化のうち特に、女性の地位、カースト制度、多神教思想、アーリア人の侵入・移民、というテーマに関する教科書の記述が、現代のアメリカに暮らすヒンドゥー教徒に、ヒンドウイズムが軽蔑的かつ不平等に描写されていると感じさせるものである、というのがヒンドゥー団体がわの主張であった。かれらが提出した修正案は学術的観点からみて実際の歴史とは異なるとして退けられたが、かれらの主張の根底には、学校で古代インド史をネガティブな視線で教えられることによって、ヒンドゥーの子供たちが自分の属する文化に劣等感を抱かされている、アメリカ社会の主流派であるキリスト教に基盤をおくアメリカ的価値観によってマイノリティーである自分たちの文化が蔑視されている、という一部のインド系アメリカ市民のアメリカ社会に対する反発の感情がみられる。カリフォルニア州教科書問題では、このような感情が、ヒンドゥー・ナショナリスト関連団体による組織的運動と連動して顕在化したといえる。この教科書問題ではインド系アメリカ市民のあいだでも見解の相違による対立が生じたが、その一方で、インド文化とアメリカ的価値観の相克という、インドにおける歴史教科書問題とは異なる問題の側面も垣間見られる。

欧米インド学とヒンドゥー至上主義の対立は、非難の応酬のまま収拾がつかないのが通例である。

しかしカリフォルニア州教科書論争では、次期の教育現場で用いる教科書の改訂という事案の性質上、教育委員会および法廷という公の場で、なんらかの結論を出すことが必要であった。そのため、ヒンドゥー至上主義的歴史観を掲げるアメリカのヒンドゥー団体が古代インドの描写について問題にする主要な論点について、ヒンドゥー団体と南アジア研究者の双方が正面から持論を主張した。このカリフォルニア州のケースは、アメリカ合衆国公立学校の教科書問題について、ヒンドゥー団体が組織的に関与した最初の事例であるとともに、アメリカの中心的な南アジア研究者たちが当事者として関与し、アメリカ学術界の主流学説とヒンドゥー至上主義的歴史観との不協和点を公の場で示した事例として、今後のアメリカ各州の古代インド史教科書改訂に際して参考にされる事案になると思われる [Visweswaran et al. 2009: 108–110; Bose 2008: 27] ³⁶⁾。この事案はアメリカという文脈でこそ起きたものであって、現代アメリカ社会におけるヒンドゥーの社会的立場、インド系アメリカ市民の間でのそれぞれの立場と見解の相違など、単にヒンドゥー至上主義ないしヒンドゥー・ナショナリズムの拡大という視点から一面的に見ることはできない諸問題を包含している。

註

- 1) 田中 [2010] は人類学の立場から、かつて欧米の研究者とインド人の間にあった研究者と研究対象との距離がグローバル化のなかで消失していく例として、筆者のノートをもとにこのカリフォルニア州教科書問題に言及している。田中教授からは筆者が「現代インド地域研究京都大学拠点第2回グローバル・インド研究会」(2010年9月30日、京都大学)にて本稿草稿を口頭発表した際に、アメリカが舞台であったことがこの事案にとって重要な点であり、「もはや観察者・傍観者として『寛容』ではいられない研究者」という視点がある、というコメントをいただいた。
- 2) これらの論考が出版された時点では、カリフォルニア州教科書問題から発展した訴訟のうちひとつ(後述のCAPEEM裁判)はまだ終結していなかった。
- 3) フェアファクス教科書問題に関する以下の要約はGlod [2005]にもとづく。Fairfax County School Board [2005]も参照。
- 4) 以下に述べる改訂開始から終了までの経緯は、教科書最終修正案が承認された後で起こされた後述する二件の訴訟のうち、教材の平等化を求めるカリフォルニア父母の会 (California Parents for the Equalization of Educational Materials, CAPEEM) が起こした訴訟におけるカリフォルニア地方裁判所による案件背景説明文にもとづく [United States District Court, Eastern District of California 2009a: 5–21]。カリフォルニア州教科書改訂をめぐる論争の概略は前出の研究にもまとめられている [Visweswaran et al. 2009: 106–112; Kurien 2007: 204–206; Bose 2008]。ウェブ上のWikipediaにはこの論争の概略と、アメリカとインドにおけるメディア報道の一部が掲載されている (http://en.wikipedia.org/wiki/California_textbook_controversy_over_Hindu_history) [2010年8月17日アクセス]。
- 5) Visweswaran et al. [2009: 106] によるこれらの団体の相関図を参照 (Figure 1: The *Sangh Parivar*'s U.S. Connections)。この図はBose [2008: 19] の Figure 1. The RSS's global reach とほぼ同じである。
- 6) 後述する2006年2月27日付の教育委員会および教育課による最終修正案 (“February 27 Edits and Corrections List”) では、再検討した上での結論として、この項目は「元の文案に従うこと」と指示された [California Department of Education 2006a: 94]。
- 7) 最終修正案ではこれは「男性は女性より多くの財産権を有していた。通例は男子だけが財産を相続でき、

- 男性だけが学校に通いあるいは祭官になることができた。女性の教育は主として家庭内で行われた」と書き換えるよう指示された [California Department of Education 2006a: 101]。
- 8) 最終修正案では元の文案に従うよう指示された [California Department of Education 2006a: 109]。
 - 9) 最終修正案では元の文案に従うよう指示された [California Department of Education 2006a: 109]。
 - 10) 最終修正案では元の文案に従うよう指示された [California Department of Education 2006a: 110]。
 - 11) 最終修正案では「階級制度はヒンドウイズムがいかにインドの日常生活構造に影響したかのほんの一例である」と書き換えるよう指示された [California Department of Education 2006a: 111]。
 - 12) 最終修正案では元の文案に従うよう指示された [California Department of Education 2006a: 94]。
 - 13) 最終修正案では「神々・女神たち」を「神格たち deities」と置き換えるよう指示された [California Department of Education 2006a: 123]。元の文案の引用には「女神たち goddesses」の語は見られないが、前後の項目で gods and goddesses を deities に修正しているため、そのまま引き写されたとみられる。
 - 14) アーリア人侵入・移民説に関しては、上掲の HEF 修正案第 81 項、第 17 項が問題にしている教科書文案とその修正案も参照。
 - 15) 最終修正案では、最初の文章は「紀元前二千年紀に、アーリア人とよばれる人々が北インドに移住した。ヒンドウイズムをインドにもたらしたのはアーリア人の功績だとする歴史家もいる」と書き換えるよう、二番目の文章は削除するよう指示された [California Department of Education 2006a: 120]。
 - 16) 最終修正案では「他地域から来た人々の言語と伝統がハラッパーの人々の旧来の慣習にとってかわった」と書き換えるよう指示された [California Department of Education 2006a: 106]。
 - 17) 最終修正案では暫定委員会の是認した文案から「インド国内の」を削除するよう指示された [California Department of Education 2006a: 100]。
 - 18) 「これらの団体には、アンベドカル正義・平和センター、アメリカ・インド仏教協会、ニュー・リパブリック・インディア、グル・ラヴィ・ダス・グールドワーラなどのカリフォルニアの諸グリット・シク・テンプル、北米タミル・サンガム連盟、セキュラーで調和的なインドをめざす非居住者インド人の会、ヴァイシュナヴァ・センター・フォア・エンライテンメント、インド系アメリカ人公教育諮問評議会、南アジア友の会、反コミュニナリズム連携組織などが含まれていた」 [Visweswaran et al. 2009: 111–112, n. 32; 107]。
 - 19) United States District Court, Eastern District of California [2009a: 16–17]; California Department of Education [2006b: 11–13]. 3月8日の最終承認では、アーリア人侵入・移民説については学界で議論があることを付記する、ヴェーダについては聖典という語を使うなど、四点について委員長から指示が追加された [California Department of Education 2006b: 12]。
 - 20) 上掲の各修正案例に対する註を参照。
 - 21) Superior Court of the State of California, County of Sacramento, Case No. 06CS00386.
 - 22) HAF 創立者のひとりミヒル・メガニは VHPA と HSS のメンバーであり BJP のウェブサイトに「ヒンドゥトヴァ：偉大なるナショナリスト・イデオロギー」という論文を寄稿したとされる [Kurien 2007: 159; 145; cf. 191–192]。
 - 23) 公開会合法については行政手続法と重複するため扱う必要なしとされた。
 - 24) United States District Court, Eastern District of California, Case No. 2:06-CV-00532-FCD-KJM. 提訴の根拠については United States District Court, Eastern District of California [2006; 2008; 2009a: 2; 20–21] 参照。
 - 25) HAF のウェブサイトによると、判決後の合意として、教育委員会は HAF 訴訟費用の一部を支払うことに同意したという [Hindu American Foundation 2007]。

- 26) 2000年のセンサスによると、カリフォルニア州のインド系 (Asian Indian) の人口は 360,392 人で、2010年のセンサスでは 528,176 人に増大している。第2章で言及したヴァージニア州、ニュージャージー州もインド系市民の人口が多い (2010年時点でヴァージニアは 103,916 人で全米7位、ニュージャージーは 292,256 人で3位)。VFが本拠をおくテキサス州は 2010年時点で 245,981 人、HAFが郵送用住所をおくメリーランド州は 79,051 人と、いずれもインド系人口の多さでは全米で十指に入る。
- 27) 「市民宗教」という概念は、アメリカの宗教社会学者ロバート・ベラーがアメリカの公的・政治的領域における宗教的次元に対して用い始めたものである [Bellah 1967; ベラー 1973: 343-375]。森 [1996: 37] はこれを「見えざる国教」と言い換えている。「市民宗教」におけるキリスト教の色彩の濃さについては森 [1996]、安酸 [2003: 114-117]、藤原 [2009: 82-86] などを参照。
- 28) 忠誠の誓いとは次の文言をさす：「私はアメリカ合衆国国旗と、それが象徴する、万民のための自由と正義をそなえた、神の下の分割しえないひとつの国である共和国に、忠誠を誓う (I pledge allegiance to the Flag of the United States of America, and to the Republic for which it stands, one Nation under God, indivisible, with liberty and justice for all)」。忠誠の誓いを公立学校で行うことについては異論の声もあり、裁判も起こされている [藤原 2009:72-75]。
- 29) CAPEEMをはじめこの論争で発言したヒンドゥー団体は宗教の描写について「正確な」「不正確な」という表現をよく用いている。文脈からみると、その宗教を信仰する者の多くがその描写・記述をよしとしているかどうかをさしているようである。
- 30) クリエンは、カリフォルニア州教科書問題によって、アメリカのヒンドゥー指導者を自任する人々によるヒンドゥイズムの解釈が必ずしもすべてのアメリカ在住のヒンドゥーに受け入れられるものではないことと、アメリカにおける反ヒンドゥー至上主義の団体が組織化を強めはじめたことが示されたことと論じている [Kurien 2007: 243-244]。この教科書問題でヒンドゥー団体側は、HEF/VF 修正案に反対した南アジア系団体を「反ヒンドゥー (anti-Hindu)」とよび、ダリット団体のひとつをその実態はキリスト教団体であると非難している [Kurien 2007: 205; 243-244; United States District Court, District of Massachusetts 2007: 3-4]。
- 31) 本稿第2章および U.S. Department of State [2003] 参照。
- 32) N. Jha and N. S. Rajaram, *The Deciphered Indus Script*, New Delhi, 2000.
- 33) 著者の反論のひとつ [Rajaram 2000b] が掲載された *Organiser* はヒンドゥー・ナショナリスト組織として知られる RSS の機関誌である。
- 34) Malhotra and Jhunjhwal [2006]。マルホートラ氏はアメリカの有力ヒンドゥー団体インフィニティ財団 (Infinity Foundation) の創業者である [Kurien 2007: 155]。
- 35) インダス印章論争の当事者ラージャラム博士、カリフォルニア州教科書訴訟の当事者 HAF、同教科書問題で研究者を Hinduphobia と非難したマルホートラ氏もドニガー博士批判に加わっている (Malhotra [2002]; Rajaram [2007]; Hindu American Foundation [2009a]; cf. Hindu American Foundation n.d.[2])。
- 36) HAF はその後、教科書のヒンドゥーの描写に対する提言を、2008年6月にヴァージニア教育課に、2009年4月にカリフォルニア教育課に、2009年10月にテキサス教育課に、それぞれ送付している (Hindu American Foundation 2008, 2009b, 2009c; cf. Shukla 2009)。いずれの書状も HAF がカリフォルニアで経験した教科書訴訟に言及している。

参考文献

- 粟屋利江、2004、「インドにおける歴史教科書論争をめぐる」、『歴史と地理』、第574号 (2004/5)、1-16頁。
- 、2010、「歴史研究／叙述に賭けられるもの—実証と表象の隘路を超えて」、『南アジア研究』、

- 第22号、185-196頁。
- 田中雅一、2010、「文化をめぐる寛容と非寛容の対立を超えて—相対主義から省察的他者論の試みへ」、
第53回印度学宗教学会学術大会公開講演、大阪国際大学守口キャンパス、2010年5月29日。
- 内藤雅雄、2004、「インドにおける歴史研究と歴史教育—インド人民党支配下での歴史教科書問題」、
『専修史学』、第37号、1-27頁。
- 長田俊樹、2001、「はたしてアーリア人の侵入はあったのか？ ヒンドゥー・ナショナリズムの台頭
のなかで—言語学・考古学・インド文献学」、『日本研究』、第23号、203-204頁。
- 藤原聖子、2009、『現代アメリカ宗教地図』、平凡社新書。
- 、2011a、『教科書の中の宗教—この奇妙な実態』、岩波新書。
- 、2011b、『世界の教科書でよむ<宗教>』、ちくまプリマー新書。
- ベラー、R. N.、1973、「アメリカの市民宗教」、『社会変革と宗教倫理』、河合秀和訳、未来社、343-375頁。
- 森孝一、1996、『宗教からよむ「アメリカ」』、講談社選書メチエ。
- 安酸敏眞、2003、「アメリカニズムと宗教」、『聖学院大学論叢』、16-1、103-128頁。
- Bellah, N. Robert, 1967, “Civil religion in America,” *Daedalus*, 96-1, Winter 1967, pp. 1-21.
- Bose, Purnima, 2008, “Hindutva Abroad. The California Textbook Controversy,” *The Global South*,
2-1, Spring 2008, pp. 11-34.
- California Department of Education, 2000, *History-Social Science Content Standards for California
Public Schools. Kindergarten Through Grade Twelve. Adopted by the California State Board of
Education, October, 1998* (<http://www.cde.ca.gov/be/st/ss/documents/histsocscistnd.pdf>) [reposted
June 23, 2009].
- 、2005, “2005 History-Social Science Primary Adoption: Curriculum Development and
Supplemental Materials Commission Recommendations” ([http://www.cde.ca.gov/be/ag/ag/yr05/
documents/bluenov05item05.doc](http://www.cde.ca.gov/be/ag/ag/yr05/documents/bluenov05item05.doc)).
- 、2006a, “2005 History-Social Science Primary Adoption Edits and Corrections List = February
27 Edits and Corrections List” ([http://www.cde.ca.gov/be/ag/ag/documents/hssnotice022706a1.
pdf](http://www.cde.ca.gov/be/ag/ag/documents/hssnotice022706a1.pdf)).
- 、2006b, “Final Minutes. State Board of Education, March 8, 2006” ([http://www.cde.ca.gov/be/
mt/ms/index.asp](http://www.cde.ca.gov/be/mt/ms/index.asp)).
- The Campaign to Stop Funding Hate, n.d., “Unmistakably Sangh: The National HSC and its Hindutva
Agenda. An Executive Summary” (http://www.stopfundinghate.org/exec_summary.pdf).
- Delhi Historians’ Group, 2001, *Communalisation of Education. The History Textbooks Controversy*
(http://www.friendsofsouthasia.org/textbook/NCERT_Delhi_Historians_Group.pdf).
- Educators’ Society for the Heritage of India, 2005, *Newsletter*, March 2005 (<http://www.eshiusa.org/>)

- NL-vol1_030805.htm).
- Fairfax County School Board, 2005, “Minutes. Luther Jackson Middle School, Regular Meeting No. 16, March 31, 2005” (<http://www.fcps.edu/schlbd/minutes/20050331R.pdf>).
- Friends of South Asia, n.d., “Letters supporting FOSA/CAC’s position on the California textbook controversy” (<http://www.friendsofsouthasia.org/textbook/LettersOfSupport.html>).
- Glod, Maria, 2005, “Wiping Stereotypes of India off the Books. Fairfax Parents Win Nuanced Lessons on Homeland,” *Washington Post*, April 17, 2005 (<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/articles/A59613-2005Apr16.html>).
- Hindu American Foundation, n.d.[1], A Brochure (http://www.hafsite.org/sites/default/files/08_HAF_DC_CRP_0505_Brochure_web.pdf).
- , n.d.[2], “Denigration of Lord Ganesh” (<http://www.hafsite.org/issues/academia/>).
- , n.d.[3], “Who We Are” (http://www.hafsite.org/about/who_we_are).
- , 2007, “Hindu American Foundation Finalizes Lawsuit Terms with California State Board of Education” (http://www.hafsite.org/?q=issues/academia/haf_finalizes_lawsuit_with_california).
- , 2008, “HAF Submits Comments for Curriculum Frameworks to VA DOE” (<http://www.hafsite.org/media/pr/publicvasubmission>).
- , 2009a, “HAF Urges NBCC Not Honor Doniger’s Latest Book” (<http://www.hafsite.org/media/pr/nbccletter>).
- , 2009b, “HAF Continues Quest for Equality in California Textbooks: Submits Comments on Curriculum Frameworks” (<http://www.hafsite.org/media/pr/ca-frameworks>).
- , 2009c, “HAF Submits Recommendations for TEKS to Grade Six Committee” (<http://www.hafsite.org/media/pr/teksgrade6>).
- Kurien, Perma A., 2006, “Multiculturalism and ‘American’ Religion: The Case of Hindu Indian Americans,” *Social Forces*, 85-2, pp. 723–741.
- , 2007, *A Place at the Multicultural Table. The Development of an American Hinduism*, Rutgers University Press, New Brunswick, New Jersey, and London.
- Malhotra, Rajiv, 2002, “RISA Lila -1: Wendy’s Child Syndrome,” *Rajiv Malhotra blogs on sulekha*, Sep 6, 2002 (<http://rajivmalhotra.sulekha.com/blog/post/2002/09/risa-lila-1-wendy-s-child-syndrome.htm>).
- Malhotra, Rajiv, and Vidhi Jhunjhwal, 2006, “Academic Hinduphobia,” *Outlookindia.com*, Feb 10, 2006 (<http://www.outlookindia.com/article.aspx?230142>).
- Menon, Parvathi, 2002, “Mis-oriented textbooks. Of school textbooks in Karnataka that are replete with examples of communal bias and errors of fact,” *Frontline*, 19-17, August 17–30, 2002.

- Rajagopal, Arvind, 2000, "Hindu nationalism in the US: changing configurations of political practice," *Ethnic and Racial Studies*, 23-3, pp. 467-496.
- Rajaram, N. S., 2000a, "Harappan Horseplay: The real story," *Bharatiya Pragna*, October 2000, 2-10 (<http://www.pragna.org/Art21001.html>).
- , 2000b, "Agenda. Hindutva: Threat to Harvard?" *Organiser*, 52-15 (<http://www.organiser.org/29oct2000/agenda.html>).
- , 2007, "Children of a dead god" (Book Review: *Invading the Sacred. An Analysis of Hinduism Studies in America*), *The Pioneer, Sunday Supplement*, August 12, 2007 (<http://invadingthesacred.com/content/view/48/52/>).
- Shukla, Aseem, 2009, "Serious Flaws in Textbook Adoption Process," *The Washington Post*, September 2, 2009 (http://newsweek.washingtonpost.com/onfaith/panelists/aseem_shukla/2009/09/lawsuit_showed_serious_flaws_in_textbook_adoption_process.html).
- Thapar, Romila, 2000, "Hindutva and history. Why do Hindutva ideologues keep flogging a dead horse?" *Frontline*, 17-19, September 30-October 13, 2000, pp. 15-16.
- U.S. Department of State, 2003, International Religious Freedom Report 2003: India (<http://www.state.gov/g/drl/rls/irf/2003/24470.htm>).
- , 2004, International Religious Freedom Report 2004: India (<http://www.state.gov/g/drl/rls/irf/2004/35516.htm>).
- Vedic Foundation, n.d., "Textbook Reform Initiative" (http://www.thevedicfoundation.org/Textbook_Reform_Initiative/index.html) [2010年3月30日アクセス].
- Visweswaran, Kamala and Michael Witzel, Nandini Manjrekar, Dipta Bhog, Uma Chakravarti (Visweswarain et al.), 2009, "The *Hindutva* View of History. Rewriting Textbooks in India and the United States," *Georgetown Journal of International Affairs*, Winter/Spring 2009, pp. 101-112.
- Wikipedia, n.d., "California textbook controversy over Hindu history" (http://en.wikipedia.org/wiki/California_textbook_controversy_over_Hindu_history) [2010年8月17日アクセス].
- , n.d., "Hindu Students Council" (http://en.wikipedia.org/wiki/Hindu_Students_Council) [2010年8月17日アクセス].
- , n.d., "Wendy Doniger" (http://en.wikipedia.org/wiki/Wendy_Doniger) [2010年8月9日アクセス].
- Witzel, Michael, and Steve Farmer, 2000, "Horseplay in Harappa. The Indus Valley Decipherment Hoax. Michael Witzel, a Harvard University Indologist, and Steve Farmer, a comparative historian, report on media hype, faked data, and Hindutva propaganda in recent claims that the Indus Valley script has been decoded," *Frontline*, 17-19, September 30-October 13, 2000, pp. 4-14.

- Witzel, Michael, 2005, A letter to State Board of Education, California, November 8, 2005 (<http://www.people.fas.harvard.edu/~witzel/witzelletter.pdf>).
- , 2006, “Rama’s realm. Indocentric rewritings of early South Asian archaeology and history,” in Garrett G. Fagan (ed.), *Archaeological Fantasies. How Pseudoarchaeology Misrepresents the Past and Misleads the Public*, London and New York, pp. 203–232.
- Zhou, Lulu, 2006, “After Letter, Prof Gets Hate E-mail. Witzel asked California schools to uphold historical accuracy on Hinduism in textbooks,” *The Harvard Crimson*, March 14, 2006 (<http://www.thecrimson.com/article/2006/3/14/after-letter-prof-gets-hate-e-mail/>).

主要な裁判文書（時系列）

- Superior Court of the State of California, County of Sacramento, 2006, Hindu American Foundation, et al., v. California State Board of Education, et al., Case No. 06 CS 00386 (the Court’s tentative ruling on the petition for writ of mandate, set for hearing in Department 19 on Friday, September 1, 2006) (<http://tinyurl.com/lxtkyu>).
- United States District Court, Eastern District of California, 2006, Case No.:2:06-cv-00532-FCD-KJM, Document 40, Filed 08/25/2006, Second Amended Complaint. California Parents for the Equalization of Educational Materials, Plaintiff, v. Kenneth Noonan, Ruth Bloom, Alan Bersin, Yvonne Chan, Donald G. Fisher, Ruth E. Green, Joe Juárez, Johnathan Williams, and David Lopez, all in their official capacities as Members of the California State Board of Education; and Tom Adams, in his official capacity as Director of the Curriculum Frameworks and Instructional Resources Division and Executive Director of the Curriculum Commission (of the California State Department of Education), Defendants (<http://www.capeem.org/docs/Complaint.pdf>).
- United States District Court, District of Massachusetts, 2007, No 07 MBD 10128, Motion to Compel Re Subpoena to Michael Witzel, dated this 11th of May, 2007 (<http://www.capeem.org/docs/CompelWitzel.pdf>).
- United States District Court, Eastern District of California, 2008, Case No.:2:06-cv-00532-FCD-KJM, Document 92, Filed 03/25/2008. California Parents for the Equalization of Educational Materials, Plaintiff, v. The California Department of Education, et al., Defendants (http://www.capeem.org/docs/CAPEEM_Order.pdf).
- United States Court of Appeals, For the First Circuit, 2008, No. 07-2286, In Re: Subpoena to Michael Witzel, Appeal from the United States District Court for the District of Massachusetts, July 7, 2008 (<http://laws.findlaw.com/1st/072286.html>).
- United States District Court, Eastern District of California, 2009a, Case 2:06-cv-00532-FCD-

- KJM, Document 212, Filed 02/26/2009. California Parents for the Equalization of Educational Materials, Plaintiff, v. Kenneth Noonan, et al., Defendants (<http://tinyurl.com/ldreus>).
- United States District Court for the Eastern District of California, 2009b, Case 2:06-cv-00532-FCD-KJM, Document 220, Filed 06/02/2009, Stipulation for Dismissal, Settlement and General Release Agreement. California Parents for the Equalization of Educational Materials, Plaintiff, v. Kenneth Noonan, Ruth Bloom, Alan Bersin, Yvonne Chan, Donald G. Fisher, Ruth E. Green, Joe Juárez, Johnathan Williams, and David Lopez, all in their official capacities as Members of the California State Board of Education; and Tom Adams, in his official capacity as Director of the Curriculum Frameworks and Instructional Resources Division and Executive Director of the Curriculum Commission (of the California State Department of Education), Defendants (<http://tinyurl.com/mjcs8p>).
- United States District Court for the Eastern District of California, 2009c, Case 2:06-cv-00532-FCD-KJM, Document 221, Filed 06/03/2009, Order Entering Final Judgment and Dismissing Remainder of Action. California Parents for the Equalization of Educational Materials, Plaintiff, v. Kenneth Noonan, Ruth Bloom, Alan Bersin, Yvonne Chan, Donald G. Fisher, Ruth E. Green, Joe Juárez, Johnathan Williams, and David Lopez, all in their official capacities as Members of the California State Board of Education; and Tom Adams, in his official capacity as Director of the Curriculum Frameworks and Instructional Resources Division and Executive Director of the Curriculum Commission (of the California State Department of Education), Defendants (<http://tinyurl.com/lzhdwd>).